

各位

2017年6月7日  
株式会社リットーミュージック

心ときめくポップスを支えた七色のギター・プレイ。  
『ギター・マガジン 2017年7月号』は、  
“モータウン・レーベル”をギター目線で掘り下げる！



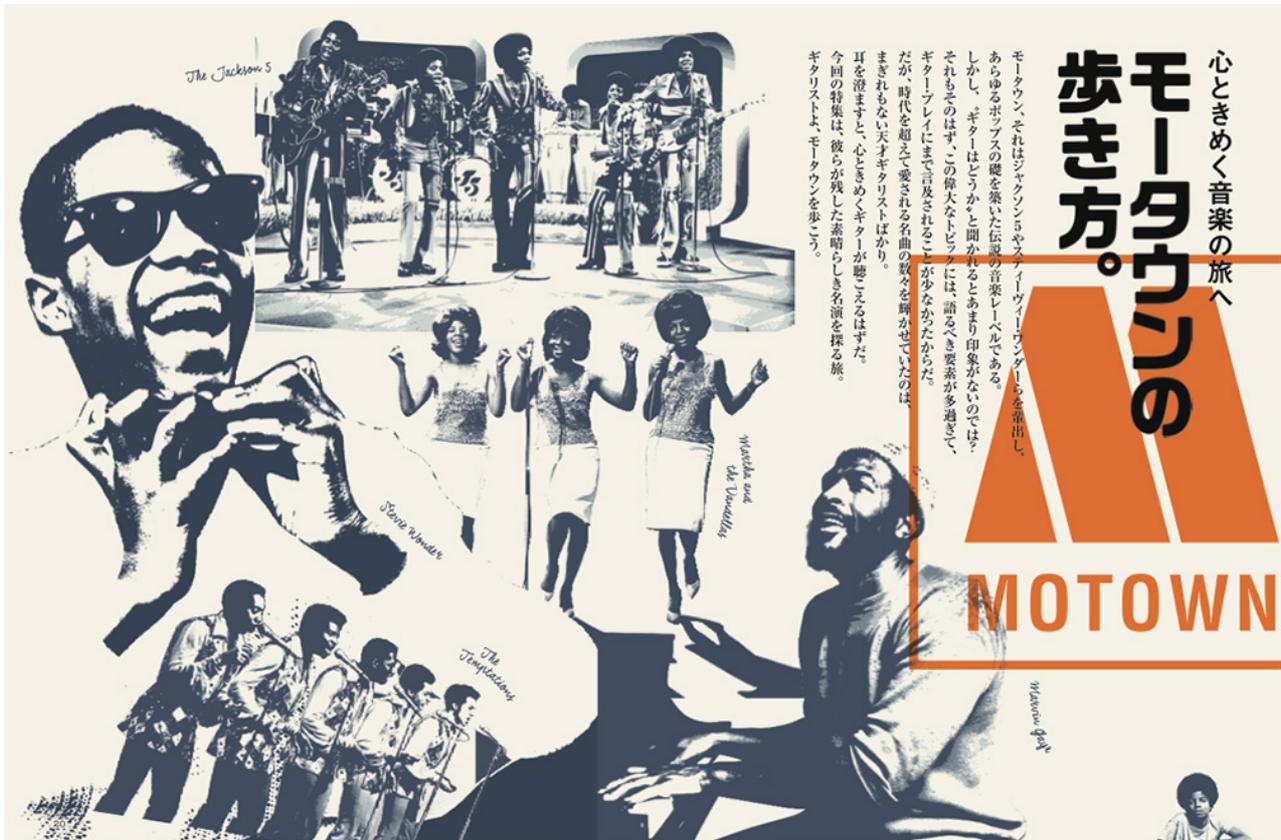
インプレスグループで音楽関連の出版事業を手がける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役：古森優）は、音楽専門誌『ギター・マガジン 2017年7月号』を2017年6月13日に発売します。

『ギター・マガジン』の詳細はこちら <http://www.rittor-music.co.jp/magazine/gm/>

## ■総力特集

心ときめく音楽の旅へ

# モータウンの歩き方。



モータウン。それはジャクソン5やスティーヴィー・ワンダーらを輩出し、あらゆるポップスの礎を築いた伝説の音楽レーベルである。

しかし、“ギターはどうか”と聞かれるとあまり印象がないのでは？

それもそのはず、この偉大なトピックには、語るべき要素が多すぎて、ギター・プレイにまで言及されることが少なかったからだ。

だが、時代を超えて愛される名曲の数々を輝かせていたのは、まぎれもない天才ギタリストばかり。

耳を澄ますと、心ときめくギターが聴こえるはずだ。

今回の特集は、彼らが残した素晴らしい名演を探る旅。

ギタリストよ、モータウンを歩こう。

## ●THE MOTOWN HOT 10～モータウンってなんだ？

知っておくべき10のコト

# THE MOTOWN HOT 10

## MONTHLY CHART JULY 2017

モータウンといえばジャクソン5やスティーヴィー・ワンダー、ダイアナ・ロスなど、伝説的ビッグ・アーティストを何組も輩出してきたブラック・ミュージック界の超名門レーベルだ。“言われなくてもわかってるよ！”なんて人も多くいると思うが、“レーベルなんか気にしたことない”というギタリストもいるはず！ 特集冒頭はモータウンを知るうえで、絶対に欠かせない10のトピックを紹介していこう。

### モータウンってなんだ？ 知っておくべき10のコト

CHART	TITLE	WRITER	Page
1	→ 永遠に語り継がれるモータウン・スターたち	田光マコト	23
2	➡ まるで養成所！ モータウンが育てた天才ギタリストたち	久保木雅	24
3	📖 ファンキー？ ソウルフル？ メロウ？ すべてのギターがここにある	田光マコト	25
4	📖 意外なおのギタリストも参加していた！？	小川真一	25
5	📖 モータウン創設者は音楽バカの元ボクサー！	佐藤英輔	26
6	➡ このマークもモータウン！ “M”以外も見逃すな！	佐藤英輔	27
7	➡ 天才作曲家たちが書き上げた珠玉のギター・アレンジ	小川真一	27
8	📖 超ブラック企業！ ファンク・ブラザーズ、重宝の給料事情	小川真一	28
9	📖 時代は流れ……ゴーターの手を離れたモータウン	佐藤英輔	28
10	→ バック・トゥ・デトロイト情勢1960	佐藤英輔	29

## NO.1

### 永遠に語り継がれる モータウン・スターたち

by 田光マコト

1960~70年代のソウル・ミュージックを語るうえで真っ先に名前をあげなければならないレーベルといえばワシントン・モータウンだ。スタックスはアメリカ南部のメンフィス、ア&Rはカリフォルニアのインディオ、スレディンク、サム・デイズなど、おもに白人のためのティーン・ブイズム・アルバムといったイメージが強い。一方、白人も多く住む北部アラバマを拠点としたモータウンは、ブラック・ミュージック愛好者ながらも白人を受け入れられやすい環境を築き、全米に打ち出し、アメリカのみならず世界中で圧倒的なポピュラリティを持ったアーティストが多数存在した。

また、モータウンの管理力で一躍スターダムにのし上がった。そして、若くしてスターになったといえどスティーヴィー・ワンダーも忘れてはならない(註)。12歳でモータウンからデビューし、キャリア2年目にして「フィンガー・オブ・アス」が史上最少でビルボード1位を獲得。その後も世界的音楽シーンで活躍したこのあたりの天才少年を数輩した先達の例は、今考えればと驚異的だ。

ダイアナ・ロスを中心とした女性3人組ボニー・キャメレン・ブルーシュー・プリムスも当時のモータウンの代表選手(註)。「君はあせらずな」はモータウン・ビートと呼ばれ、レーベルの知名度を一気に引き上げた。ロスは60年代にもデュエット・ソング「エンジェル・ラブ」をメガヒットさせているが、その一方であるライオネル・リッチーも忘れて

ジャクソン5、スティーヴィー・ワンダー、ダイアナ・ロス、マーヴィン・ゲイ……伝説級のビッグ・アーティストがたくさん！



モータウンといえば伝説的ビッグ・アーティストを何組も輩出してきたブラック・ミュージック界の超名門レーベルだ。“言われなくてもわかってるよ！”なんて人も多くいるとは思いますが、“レーベルなんか気にしたことない”というギタリストもいるはず！ 特集冒頭はモータウンを知るうえで、絶対に欠かせない10のトピックを紹介する。

## ●70年代を中心に紐解く ギタリストが聴くべきモータウン！

ジャクソン5/スティーヴィー・ワンダー/マーヴィン・ゲイ/コモドアーズ/ウィリー・ハッチ/アンディスピューテッド・トゥールズ/テンプテーションズ/シュープリームス/ダイアナ・ロス/スモーキー・ロビンソン&ミラクルズ/スピナーズ

モータウンの黄金期は60年代から70年代の初頭、というのが一般的で、誰もが知るような有名曲もその時期に集中している。しかし！ 時代的にもまだまだエレキ・ギターがそこまで重視されておらず、“ベースのほうがカッコいいじゃん！”なんて音源も多かったりして、あまりギター的には“おいしく”ないのも事実。そこで、主に70年代、つまりロックの発展とともにギターの重要度が増していく時期の“おいしい”アルバムを紹介する。有名曲の影に隠れた(?)、ギターが最高にカッコいい作品を探っていこう！





●名手直伝！誌上スペシャル・セミナー  
 TAKU（韻シスト）presents  
 モータウン・ギターの常套句



大特集の最後は、モータウン風のフレーズを集めたCD連動企画“モータウン・ギターの常套句”をお届け。音源&解説を担当してくれたのは、ジャジィ&ファンキーなサウンドで今を時めくヒップホップ・バンド、韻シストのTAKU。デヴィッド・T.ウォーカーをはじめとするモータウンの名手たちに多大な影響を受けたTAKUが、渾身のトラックとたっぷりの愛で送る、黄金の名フレーズたちを味わって欲しい！

●The Instruments  
 時代を変えるイノベーター  
 Line 6 のすべて

数多くの革新的な機材を世に送り出している Line 6。96年の設立以来、数々の魅力的な製品を生み出し、ギタリストの創造力を刺激してきた。最近では得意とする最先端のデジタル技術を詰め込んだギター・プロセッサー Helix シリーズを発表し、今なお音楽業界に大きな影響を与えている。今回は普段から同社製品を愛用するギタリストのインタビューや、ブランドが作り出してきた名シリーズの紹介、最新機種 Helix LT の試奏、そして社長であるマーカス・ライルのインタビューなどを通し、楽器業界に革新をもたらし続けてきた Line 6 の魅力を掘り下げていこう。

## ■GM セレクション

「さよならは言わないで」 デヴィッド・T.ウォーカー

「ホワッツ・ゴーイン・オン」 デヴィッド・T.ウォーカー

<その他のコンテンツも盛りだくさん！>

《雑誌》

『ギター・マガジン 2017年7月号』

特集：モータウンの歩き方

発売：6月13日

特別定価：980円（本体907円＋税）

仕様：A4変型判／250ページ

詳細はこちら <http://www.rittor-music.co.jp/magazine/gm/>

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>

□所在地：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング □設立：1978年4月10日

□資本金：1億円 □決算期：3月31日 □従業員数：81名（2016年4月31日現在） □代表取締役：古森優

□事業内容：音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

以上

---

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 宣伝広報

Tel: 03-6837-4728/ E-mail: [pr@rittor-music.co.jp](mailto:pr@rittor-music.co.jp)